

萬代橋・ウンチク10選

国の重要文化財指定となった萬代橋。長い歴史を持つ橋だけあって、そこにはさまざまなエピソードが。そのなかから思わず「へえ〜」と膝を打ちたくなるようなウンチク話をご紹介します。



最初の呼び名は「よろずよばし」だった。

萬代橋と書いて「ばんだいばし」。今ではこの呼び名がすっかり定着しているが、そもそも「よろずよばし」として命名された。萬代までも新潟の発展に尽くすように、との願いを込めてつけられたのだった。呼び名は変わっても、その願いは通じていると言えそうだ。

＊いつから「ばんだいばし」と呼ばれるようになったのかは…残念ながら定かではありません。



三代目萬代橋は大河津分水路の整備により建設が可能となった。

昭和2年3月に大河津分水路が完成したことにより、信濃川の川幅が770mから270mへと約1/3に狭められた。川幅が変わらなかったとすると建設費用は単純計算でも3倍となるが、一般的にはそれで納まるはずはなく、格段に高度な技術力をも必要としたはずである。左の写真は川幅が広がった頃の二代目萬代橋。

＊萬代橋は、東西新潟の交流を支える要として位置付けられ、その架け替えは近代都市づくりにとって極めて重要でした。



萬代橋の中央には路面電車が走る計画があった

大正14年の新潟都市計画では、旧県庁(現市役所)から萬代橋を経て新潟駅前に至る間に軌道を敷設する計画があった。この計画を受け、萬代橋も鉄道の軌道敷(幅5.5m)を含む広幅員(21.9m)で建設。その後、軌道の建設計画が断念。結果的に萬代橋が広幅員の橋梁になったことが、現在の自動車交通を支える要因になっている。

＊建設当初の道路照明灯には、電車で用いた線が設置されており、現在の道路照明灯にはフックも復元されています。



三代目を設計したのは24歳の若者だった。

現在の萬代橋が三代目というのはよく知られた事実。完成は昭和4年だが、その設計を担当したのは福田武雄という技術者である。福田が萬代橋の設計に費やした期間は、わずか5か月。それだけでも目を見はるが、さらに驚くのは当時の福田の年齢。なんと24歳だったのだ。

＊福田武雄氏は後に東京大学助教授に任命。萬代橋完成50年目には新潟で講演も行っています。



建設には当時の最先端技術が活用された。

三代目萬代橋には当時の最先端技術であるニューマチックケーソン(空気潜函)工法が用いられた。これは鉄筋コンクリート製の箱を川底に沈めることで橋の土台にするという工法。外国の技術であるが、日本人の指揮によってこの工法が行われたのは萬代橋が最初である。

＊萬代橋の土台となる鉄筋コンクリート製の箱は五階建てのビルに相当する大きさです。



萬代橋の意匠の美しさの一つ「御影石」は、コスト縮減から生み出された。

萬代橋は鉄筋コンクリート造であるが、橋本体の表面には化粧張りとして御影石が取り付けられている。この化粧張りに要した費用は当時の額で約10万円。それを実現できたのは、基礎工事で発生した砂が萬代橋本体をつくるためのコンクリートの材料として適していたことから、これを活用したため。現在で言うコスト縮減(現場発生材の再利用)である。

＊当時の10万円という費用をあえて意匠に投じたことで、新潟のシンボルとして永く親しまれる橋となりました。



萬代橋の建設費は県庁舎よりも高かった。

三代目萬代橋の建設費は、当時の額で240万円。一方、同時期に建てられた新潟県庁舎の総事業費はおよそ162万円である。なお、当時の国の道路予算は350万円というから、いかに萬代橋に巨額の予算があてられたかがわかる。それだけ萬代橋に対する期待が高かったのである。

＊年間投資額で見ると、萬代橋は国会議事堂の建設費(18年間で2600万円)とも肩を並べています。



6つのアーチは中央からそれぞれに大きさが異なっている。

三代目萬代橋はアーチ型式の橋として美しい曲線を描いている。アーチは6つあるが、中央がもっとも大きくて、両岸に向かうにしたがってだんだん小さくなっている。これは橋全体に安定感とリズム感をもたらすと同時に、柔らかな景観を生み出すためのものだ。

＊アーチ橋になった理由の一つは関東大震災で被害の少ない橋がこの形状だったためです。



新潟地震の時に唯一通行可能な橋が萬代橋だった。

昭和39年に発生した新潟地震はマグニチュード7.5。その激震によって半月前に完成したばかりの昭和大橋は落下し、八千代橋も損傷が激しく通行不可になった。唯一、機能したのが萬代橋。全国から寄せられた救援物資は萬代橋を渡って被災者たちに届けられたのだった。

＊通行可能だったものの萬代橋も兩岸の取付部分に損傷を受けました。その復旧工事には約7か月が費やされました。



萬代橋には五つの国道が走っている。

萬代橋をその一部とする国道の数は五本にものぼる。国道7号に始まり、8号・17号・113号・350号……と、これは東京の日本橋にも匹敵するほど。これだけ多くの国道が走っているのは、萬代橋が自動車交通の重要な存在であることの証しと言えるだろう。

＊国道の橋梁が国の重要文化財として指定されたのは日本橋が最初。二番目が萬代橋です。

行ってみよう！見てみよう！ 萬代橋関連スポット



萬代橋



現在の萬代橋は三代目のもの。鉄筋コンクリート造6連アーチ橋で、橋長306.9m、幅員22.0m。表面は茨城県真壁産の御影石によって美しく仕上げられています。



「萬代橋復元プロジェクト実行委員会」による、市民の募金も加わって橋側灯を設置。街路灯・橋側灯は当時の素材にこだわり、南部鋳物を使用。75年前の設計図をもとに忠実に復元されました。

① 初代萬代橋跡記念碑



初代萬代橋は現在の萬代橋より30m川上にありました。その位置を示すため、萬代橋架橋百周年の年(昭和61年)に記念碑が設置されました。

④ 旧萬代橋基礎杭



平成8年に、地下歩道建設現場(万代クロッシング)から初代～二代目萬代橋に使われた基礎杭が発見されました。大変貴重な資料のため、木杭の展示を行っています。

② 新潟ブルース歌碑



新潟市政百周年記念として建てられました。美川憲一、黒沢明とロス・プリモスの共作で、「思い出の夜は霧が深かった 今日霧がふる万代橋よ」と萬代橋の情景が歌われています。作詞の山岸一三さんは新潟県出身。

⑤ 創架萬代橋碑



三社神社の境内に、八木朋直の萬代橋に関わる業績と朋直の長寿を記念し、かつ明治43年二代目萬代橋が完成したことを祝して、安部九二造が建立しました。裏面には「わが年も橋の長さも稀れにして御代萬代に残るいしづみ」と刻まれています。

③ 初代萬代橋橋銘板



明治19年に初代萬代橋が架橋された折、親柱に取り付けられ、明治33年4月、県に移管されるまで使用されていたものです。八木氏の所蔵となっておりましたが、現在は日本海タワーに展示されています。

⑥ みなとぴあ 新潟市歴史博物館



1886(明治19)年に架けられた初代萬代橋のジオラマ模型があります。150分の1の大きさで、萬代橋が八木朋直の経営から県営に移管された1900(明治33)年頃を現したものです。初代萬代橋は1908(明治41)年に焼失して架け替えられました。